

参加無料・事前申込不要

新自由刑と無期受刑者処遇に関する総合的研究 「日本型行刑における拘禁刑の社会化」 最終報告会

2025年6月から懲役刑と禁錮刑が「拘禁刑」に単一化され、処遇の目標に改善更生が加わりました。しかし、2024年末現在、この国の刑事施設には1650人の無期受刑者がいます。そして、その多くは釈放されることなく刑務所で生涯を終えることになります。実質的に、無期刑は終身刑化しているのです。

本プロジェクトでは、この9年の間に拘禁刑導入を想定し、長期・無期受刑者の処遇のあるべき姿を考察しました。24名の共同研究者は、日本の刑事政策学の最前線で活躍する研究者です。

日本の行刑政策の到達点を明らかにし、拘禁刑導入後の刑罰体制を展望する報告会になるでしょう。みなさま、奮ってご参加ください。

研究代表 石塚伸一

2026年2/28(土)

10:00～18:00(開場9:45)

立正大学品川キャンパス9号館地下1階9B11教室

[プログラム予定] ※時間は変更・前後することがあります。ご了承ください。

10:00～	開会あいさつ・趣旨説明
10:15～	「受刑者・出所者調査ユニット」報告
11:10～	「政策提言ユニット」報告
13:40～	「海外調査・発信ユニット」報告
15:20～	「えんたく=「長期・無期受刑者問題への対応(仮)」
17:50～	閉会あいさつ

〔ユニット1〕

(テーマ)
受刑者・出所者調査
(代表)
相澤育郎
(龍谷大学法学部教授)

〔ユニット2〕

(テーマ)
政策提言
(代表)
丸山泰弘
(立正大学法学部教授)

〔ユニット3〕

(テーマ)
海外調査・発信
(代表)
古川原明子
(龍谷大学法学部教授)

〔進行・コーディネート〕石塚伸一／南口美美(一般社団法人刑事司法未来理事)
〔「えんたく」進行(予定)〕山口裕貴(一般社団法人刑事司法未来理事)

〔主催〕新自由刑と無期受刑者処遇に関する総合的研究班

本プロジェクトは、基盤研究(B)「危険社会における終身拘禁者の社会復帰についての総合的研究:無期受刑者処遇の社会化」(2017-2020)(ライファー科研)の後継研究として「新自由刑と無期受刑者処遇に関する総合的研究:日本型行刑における拘禁刑の社会化」(新ライファー科研)をテーマとする共同研究です。

〔受刑者・出所者調査ユニット〕

相澤 育郎	龍谷大学 法学部
佐藤 舞	龍谷大学
山梨 光貴	立正大学 法学部

〔政策提言ユニット〕

丸山 泰弘	立正大学 法学部
本庄 武	一橋大学 大学院法学研究科
佐藤 元治	岡山理科大学 基盤教育センター
中村 悠人	関西学院大学 司法研究科
高橋 有紀	福島大学 行政政策学類
大谷 彰矩	明治学院大学 法学部
森久 智江	立命館大学 法学部
掛川 直之	立教大学 コミュニティ福祉学部
坂東 希	大阪公立大学国際基幹教育機構
深谷 裕	北九州 地域戦略研究所
水藤 昌彦	山口県立大学 社会福祉学部
土山 希美枝	法政大学 法学部
南島 和久	龍谷大学 政策学部

〔海外調査・発信ユニット〕

古川原 明子	龍谷大学 法学部
笹倉 香奈	甲南大学 法学部
武内 謙治	九州大学 法学研究院
ブルースター デイビッド	東京女子大学 現代教養学部
赤池 一将	龍谷大学 法学部
王 雲海	一橋大学 法学研究科
金 尚均	龍谷大学 法学部

★会場地図★

立正大学

